

13 地域の活性化を図るとともにアイデアソンを開催し交流人口を拡大(高知県:北川村全域)

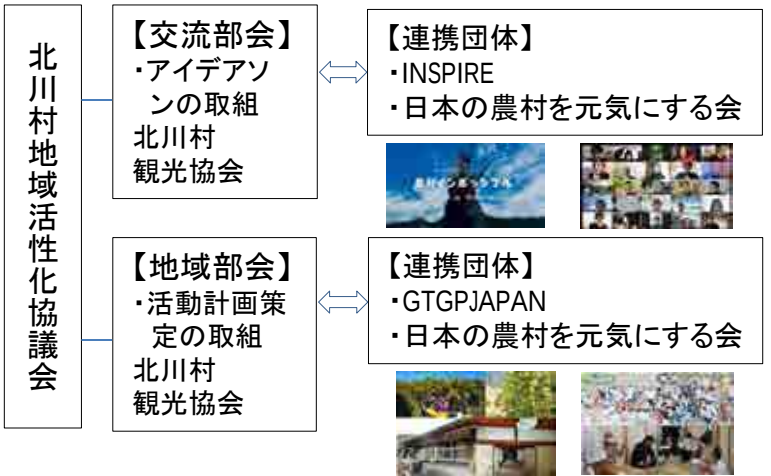


「千人の家族が子どもを育む ゆず王国北川村」を地域の将来像として掲げ、このまま何も手を打たなければ村自体が消滅する危機感の下、村として「産業」と「教育」を柱に位置付け、関係人口創出の取組を実施した。

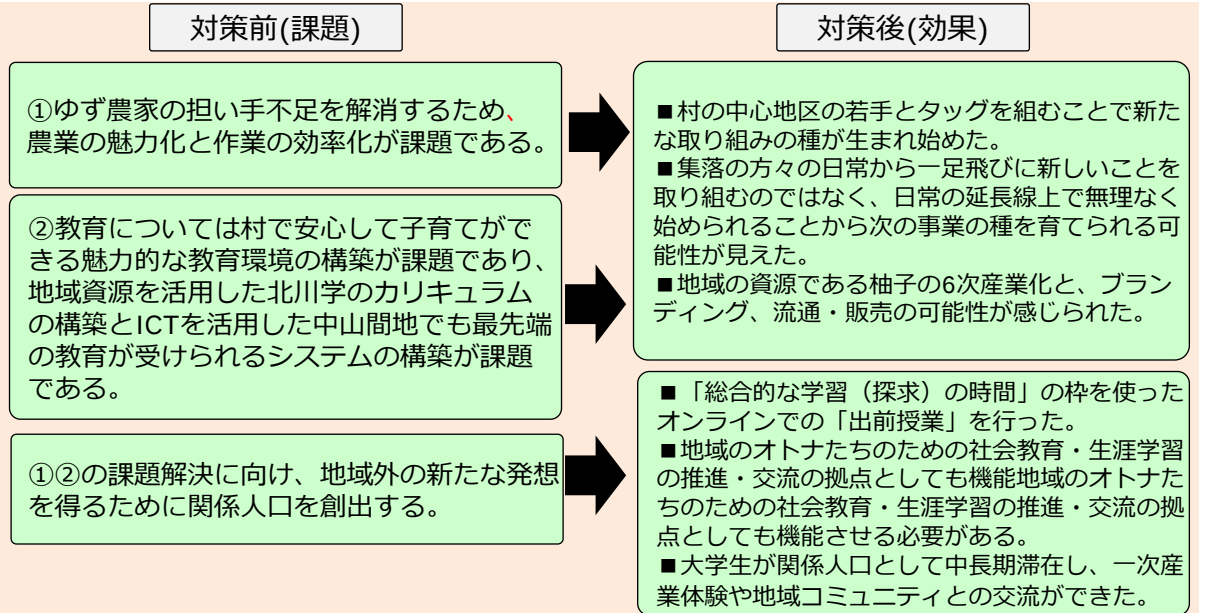
基本情報

- 所在地：高知県北川村
- 団体名：北川村地域活性化協議会
(協議会構成員)
北川村・北川村観光協会・一般社団法人INSPIRE
(株)GTGPJAPAN・一般社団法人日本の農村を元気にする会
- 実施地域：北川村全域
野友集落、野川集落、加茂集落、久府付集落、長山集落、
西谷集落、木積集落、宗ノ上集落、柏木集落、崎山集落、
和田集落、小島集落、平鍋集落、二タ又集落、島集落、久
江ノ上集落、久木集落、広瀬集落、安倉集落、菅ノ上集落
- 主産業：農業・林業
(主要作物等)
ゆず

○地域協議会実施体制図



取組の概要



(取組の概要)



【事業全体のプロセス】

2019年～

きっかけ

○関係人口を創出するため、アイデアソンや様々なイベントを実施する。アイデアソンやイベントの参加者は地域外部から募集し、より新規性の高いアイデアや関係性の広がり創出され、アイデアソンやイベントの終了後も参加者とのつながりを継続していく為に、ホームページやFacebook等の取組を実施する。

村内人口の減少

農山漁村振興交付金（活動計画策定事業）の活用

2020年～

令和2年度新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、予定していたアイデアソンを中止した。

事業開始1年目（取組実績）

- アイデアソンの実施計画（新型コロナウイルス感染症の為中止）
- 地域住民間のアンケート
- 地域のことを外部の人にもっと知ってもらうために、アイデアソンの実施状況や地域での取組等を村内に設置する活動拠点及びWEB上で情報発信を行う。（Facebookのグループ作り）

2021年～

令和3年度新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、予定していたアイデアソンをオンラインのバーチャル参加として実施した。

事業開始2年目（取組実績）

- アイデアソン実施（新型コロナウイルス感染症の為バーチャル開催）
- アイデアソンの参加者はオンラインを通じて、地域外部（新規の人）から募集し、新たな関係人口の創出と共に地域の方が外部の人と交流する場をつくり、地域外部の参加者がその地域に継続して関わりやすくする。アイデアソン終了後も参加者とのつながりを継続した。

2022年～

令和4年度は、アイデアソンのリアル開催を実施したが、予算の関係上、参加者の制限を行う必要があった。

事業開始3年目（取組実績）

- アイデアソン（リアル開催）。アイデアソンの参加者は地域外部と地域内から募集し、地域外部の人は取組1～2年目のアイデアソンに参加した人及び新規で参加する人を含めて実施した。
- アイデアソン参加者と、オンラインを通じて連携を行い、提案いただいたアイデアの実現につけて、協議を行った。

今後の展望

イベント参加者との関係を継続しながら、更に関係人口数を増やす取組に活かす

- 年度終了前に、3年間の活動を振り返り、地域が自立して活動を展開していけるように計画の見直しや今後の方針について検討を行った。
- 地域外の方より、様々な発想のアイデアをいただくことができた。そのアイデアを協議会だけでなく村とともに進められる事業への展開が必要である。



収穫体験イベント



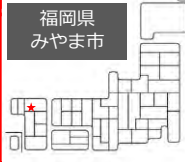
地域文化遺産



ゆず園のスマート農業



子ども達による
地域活性化イベント



「本市に住み続けたい」と思える魅力あるまちづくりを目指し、生産者及び事業者等の所得向上と併せて、農業の担い手や後継者不足、耕作放棄地の解消及び新たな雇用の場の創出を図り、地元農産物を活用し生産者、市、J A 及び事業者等が連携した新しい6次産業化の取組を実施した。

基本情報

- 所在地：福岡県みやま市
- 団体名：みやま市6次化推進地域協議会
みやま市環境経済部農林水産課、J A みなみ筑後、
ルフラン食品加工組合、みやま市商工会、
みやまスマートエネルギー（株）
- 実施地域：みやま市全域
- 主産業：農業
（主要作物等）水稲、なす、セロリ、温州みかん等柑橘
海苔養殖を含めた漁業



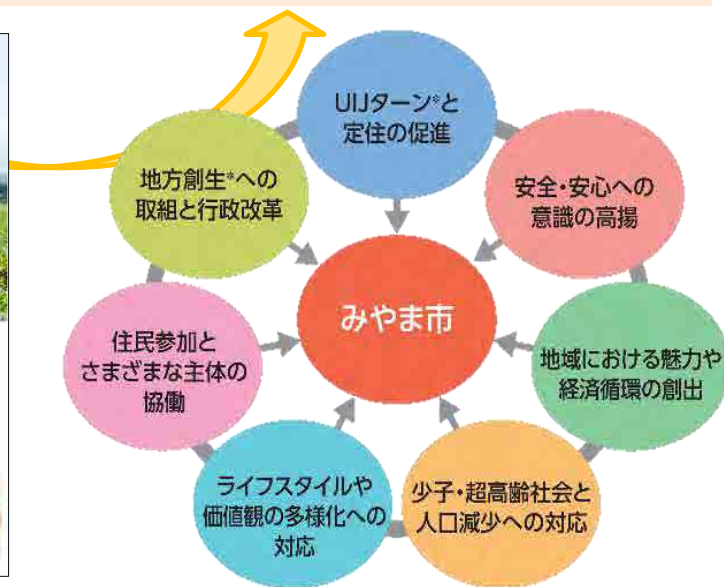
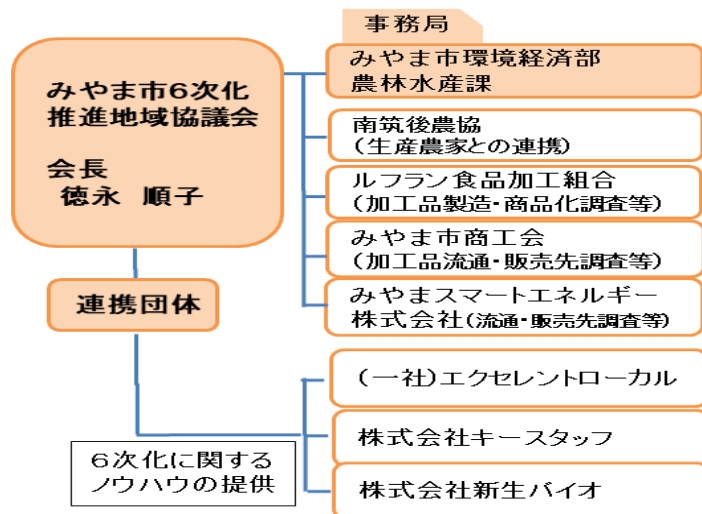
対策前(課題)

- 農業従事者の高齢化及び後継者不足が顕著であり、担い手の育成や新規就農者への支援、担い手への農地集積が必要。
- 地元農産物による加工品に取り組んでいるが、6次化商品の開発等については女性加工グループ等が直売所で販売する程度であり、本格的な取組と定着が必要。

対策後(効果)

- 豊かな地元産農産物を活用し、生産者、J A、地元事業者や市等が連携した新たな加工品等を開発・商品化した。
- 新たな加工品等の開発・商品化による農業者及び関連事業者の所得向上とともにこれらの効果により、担い手の確保や新規就農者を支援した。
- 基幹産業である農業と商業、工業等の産業間での連携を強化することで新産業の育成や雇用の創出など地域経済の活性化につながった。

体制図



【事業全体のプロセス】

2018年～

きっかけ

○基幹産業である農業産出額は野菜・果実を中心に増加しているが、高齢化や後継者不足が問題となっている。地元農産物を活用した加工品づくりは、一部の女性加工グループが直売所で販売する程度である。担い手の育成や新規就農者への支援、地元農産物を原材料とした6次産業化の推進を図り改善していきたい。



6次化セミナー

2020年～

事業開始1年目（取組実績）

- 6次化セミナーの開催、検討委員会での検討を経て、活動計画を策定するとともに、行動マニュアル、推進手順書を作成
- 健康食品等購入分析等市場調査、加工品の試作、原料栽培委員会の設置、市民向け講演会の開催、報告会の開催



HACCPセミナー

2021年～

事業開始2年目（取組実績）

- 健康食品等原料作物の品目及び健康食品等発売候補の決定
- 一次加工品製造、商品試作、商品選定と試験販売、販促に向けたデザイン戦略セミナー開催
- 先進地視察、起業セミナーの開催



むぎわらファーム視察研修

2022年～

事業開始3年目（取組実績）

- 健康食品等検討委員会の開催
市内の食品製造業者4社と6次化商品開発について意見交換を行った
- 商品選定と販路開拓
6次化商品を使ったランチメニューを開発し、期間限定で販売した



博多ファーマーズマーケット出店

今後の
展望

「みやま市に住み続けたい」と思ってもらえる魅力あるまちづくり

- 6次化商品開発に取り組む農家の支援を行い、農業者の所得向上を引き続き目指す。
- 新たな取り組みとして近隣の農業高校と共同で商品開発を行いオリジナル商品開発を目指す



6次化商品を使用したランチメニュー開発

耕作放棄地の増加
農家の後継者不足
人口減少
高齢化

農山漁村振興交付金（活動計画策定事業）の活用

6次化セミナーの開催

新型コロナウイルス感染症拡大により活動が実施しにくくなる。